

地域の「輪」

特集 —Hiraizumi-Style—

日本全体で人口減少と高齢化が止まらず、空き家の増加や地元商店の閉店、地域コミュニティの弱体化などが各地で問題となっている。今月号の特集では、地域の人たちの「この町で暮らし続けたい」という思いから生まれた活動などを紹介することで、住みよい地域社会を実現していくための方法を模索していく。



Interview

少子高齢化によるさまざまな問題に対応するために必要なこととは一。

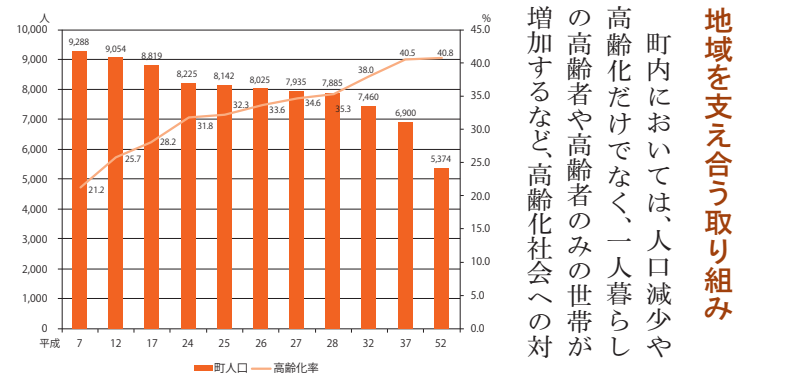


保健センター
Takahashi Kazuo
高橋 和夫
所長

住み慣れた地域で
安心して暮らしていくためには

町においても少子高齢化が進み、町民の約3人に1人は65歳以上の高齢者という状況を迎えており、一人暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯も増加しています。

住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることは誰もが願うところであり、そのためには、生活をする地域を基本として住民主体による支え合いの取り組みが重要となっています。このような状況の中、支援が必要な人を支援が可能な人が支える地域の取り組みが少しずつ進んでおり、元気な地域づくりにつながっています。



【図1】町の人口と高齢化率の推移
※住民基本台帳、町人口ビジョンより

町内においては、人口減少や高齢化だけでなく、一人暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯が増加するなど、高齢化社会への対応が課題となっている。また核家族化やライフスタイルの変化などにより、地域のつながりが希薄化し、高齢者の孤立を招くなど、無縁社会がさまざまな地域課題にもなっている。高齢者が住み慣れた地域で、安心して暮らしていくためには、社会全体で支え合う「地域コミュニティの再生」が必要となる。現在、各行政区では、地域コミュニティを再生するために、高齢者が気軽に参加できる「居場所づくり」や地域住民同士で助け合う「買い物支援」など、さまざまな地域を支え合う取り組みが進められている。

地域を支え合う取り組み

データの現状を知る
当町の平成29年11月30日現在の65歳以上の高齢者数は、人口7,785人に対して2,805人で、高齢化率は36.0%となり岩手県内でも高い水準にある。行政区別の人口と高齢化率を見てみると、8区と10区を除く全ての行政区で30%を超えている。中には40%を超える行政区もあり、町内全域で高齢化が進んでいる状況だ。(表1参照)
当町の人口と高齢化率の推移から見ても、その状況が大きく変わってきていることがわかる。平成7年には9,000人を超える人口だったが、現在は8,000人を下回り、52年には5,000人近くになると推測される。また高齢化率も右肩上がりに上昇しており、37年にはついに町内全体で40%を超えると推測されている。(図1参照)

【表1】行政区別の人口と高齢化率 (平成29年11月30日現在)

行政区	人口(人)	高齢化率(%)	行政区	人口(人)	高齢化率(%)	行政区	人口(人)	高齢化率(%)
1区	223	36.3	9区	338	36.1	17区	194	40.2
2区	378	35.2	10区	471	20.8	18区	199	45.2
3区	241	45.2	11区	1,080	34.5	19区	224	43.8
4区	125	32.0	12区	503	35.6	20区	178	47.2
5区	174	37.9	13区	503	41.0	21区	295	34.2
6区	346	32.9	14区	351	38.2	合計	7,785	36.0
7区	507	37.7	15区	467	40.7	岩手県	—	31.9
8区	696	29.2	16区	292	39.4			

※住民基本台帳、県人口移動報告年報より ※岩手県の高齢化率は平成29年10月1日現在

Chapter 1
平泉町の現状を知る

全国的に進む少子高齢化。当町においても例外ではない。この社会の変化にいかに対応していくか。町内における取り組みを通じて、地域づくりの知恵を探っていく。